練馬区 報道連絡メモ　　送付日　２０１３年１１月２０日

区長室 広聴広報課 報道係　電話 03－5984－2693

事前のお知らせ

日本植物学の父が愛した武蔵野の自然を紹介
牧野記念庭園記念館企画展
「武蔵野のおもかげ－牧野富太郎が昭和初期に採集した植物－」を開催

と　き	11 月 23 日（土・祝）～ 平成 26 年 1 月 13 日（月・祝） 午前 9 時 30 分～午後 4 時 30 分　※火曜日、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）は休館
ところ	区立牧野記念庭園記念館（練馬区東大泉 6－34－4 庭園内）/ 入場無料

世界的な植物学者で、練馬区に居を構え「日本の植物学の父」と呼ばれた牧野 富太郎博士の住居跡を整備した区立牧野記念庭園で、**「武蔵野のおもかげ－牧野富太郎が昭和初期に採集した植物－」**と題された企画展が 23 日より開催される。

企画展では、牧野富太郎が昭和 10 年代に大泉の自宅を拠点として、東京郊外の「武蔵野」と呼ばれる地域で植物採集を行った様子などを、押し葉標本、植物画、写真など約 50 点によって紹介する。

1930 年　東京帝国大学植物学科の学生とともに志村（東京都板橋区）にて

また、会期中の 12 月上旬から中旬にかけて、同庭園内では博士が命名したヘラノキや、モミジなどの紅葉が見頃を迎える。美しく色づいた木々を見ながら、博士が好んだ武蔵野のおもかげを感じることができ、例年多くの来園者で賑わう。

【東京郊外で採集した植物の標本など約 50 点を展示】

植物学者の牧野富太郎が大泉村（現練馬区立牧野記念庭園の所在地）に移り住んだ 1926（大正 15）年当時、東京郊外には雑木林が点在し、アカネ、オケラ、キキョウ、ススキといった、今では見ることが少なくなった植物も数多く自生していた。

植物の観察や採集に適したこの地を気に入った富太郎は、日本各地を訪ね植物を調査するかたわら、大泉の自宅を拠点に東京郊外の各方面へ出かけては精力的に植物調査を行った。また、武蔵野の植物について講演を行い、文章も多く残している。

企画展期間中には、トークイベントや生け花展の開催も予定している。

押し葉標本　キキョウ
1940 年牧野富太郎採集 東京首都大学東京牧野標本館蔵

【牧野記念庭園の紹介】

牧野富太郎博士が大正 15 年から 94 歳で亡くなる昭和 32 年まで居住し、自らが採取してきた植物を植え、「我が植物園」として愛した住居跡を整備した庭園。

博士の死後、この植物学ゆかりの聖地を広く一般に開放し、博士の偉業を末永く後世に伝えようと、練馬区が昭和 33 年に開園した。園内には 300 種類以上の草木類が植栽されており、スエコザサ、センダイヤ（サクラ）、ヘラノキなど、大変珍しく学問的にも貴重な植物も多数見ることができる。

庭園内の紅葉の様子

【問い合わせ】 花とみどりの相談所　電話　03-3976-9402